

タイトル：令和元（2019）年度 教育セミナー（第15回）

日時：2019年9月19日（木）～9月22日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階大会議室（303）

南 歩夢（東京外国語大学大学院総合国際学研究所 博士前期課程 1年）

中東地域やイスラームは私の直接的な研究対象ではありませんが、事例研究の一環として中東地域を取り上げる予定のため、中東地域、そしてイスラームへの理解を深めることを主な目的として、今回の中東☆イスラーム教育セミナーに参加させていただきました。

全体として、専門分野の異なる私にとっては研究報告の一つひとつを理解するのに苦労した部分も多分にあり、必ずしも中東地域、そしてイスラームへの理解が深まったというわけではありませんでした。しかしながら、自身の研究姿勢、方法、そして発表の仕方など、むしろ今後修士研究を実施していく上での前提的な面において学ぶことが多かったように感じます。中でも、専門分野の異なる人に対していかに正確に、かつわかりやすく伝えることができるかということの重要性を感じました。というのも、受講生による発表に対する質疑応答の中では、しばしばレジュメの精度や用語法に関する厳しい指摘が含まれていたためです。研究の内容そのもののほかに、自身の研究における独自の問題設定と研究史上のその位置付け、語彙の定義、訳出の仕方、発表時間に合わせた情報量の提供など、今後、自身の研究を進める上で留意しなければならない点を確認することができたのは非常に大きな収穫でした。未だ研究の基礎を学ぶ段階にある私にとっては、今回の経験が今後の研究あるいは研究報告またはその両方において、大いに役立つことと思います。

中東地域、そしてイスラームそのものに関しては、全体的に歴史学の要素が強く理解に苦しみましたが、現代国際関係を理解する上で重要な事柄も含まれており、興味深いものも多かったです。どちらかといえば、武力紛争や難民問題などの現代的な課題を直接扱う研究報告あるいはセミナーまたはその両方を期待していたので、“現代モノ”があまり扱われないという点では少し残念でした。しかし、そういった期待を持っていた以上、自分の中で中東地域研究に対する一種の偏見があったのかもしれないと痛感し、その意味においては、中東地域、そしてイスラームに対する理解が深まったといえるかもしれません。

4日感を通じて、一受講生として本教育セミナーの主旨に合致するような成果を得ることができたかどうかは定かではありませんが、たいへん実りある時間を過ごすことができたように思います。AA研の方々、講義にお越しいただいた諸先生方、そして受講生の皆さん、ありがとうございました。